

最近の道内経済動向

○道内景気は、新型肺炎による下押し圧力などから、悪化の兆しがみられる。
 ○先行きは、新型肺炎の影響による下押し圧力がさらに強まると予想される。
 ※日銀短観（3月調査）による業況判断DI（全産業）は、マイナス7と2四半期連続で悪化。
 一方、先行きは、マイナス19とさらに悪化超の割合が拡大する見通し（右下図表参照）。

（注）基調判断は、2020.4.20時点で入手可能な主要経済指標を参考とした（2～3月実績が中心）。

●個人消費は弱含んでいる

2月の主要6業態別小売店の合計販売額（全店）は、前年比1.5%増と2ヵ月連続で前年実績を上回った。一方、足元では新型肺炎の流行を受けて、旅行キャンセルに伴うインバウンド消費の減少、各種イベント自粛、外出抑制などで不要不急の消費にかかる需要が減退しており、全体の下押し圧力となっている。

（注）主要6業態とは、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、及びホームセンターを指す。

●観光は悪化している

3月の来道者数（国内交通機関経由）は、前年比▲66.0%と2ヵ月連続で前年実績を下回った。また、3月の外国人入国者数は、同▲97.9%と6ヵ月連続で前年実績を下回った。新型肺炎の流行拡大に伴い、足元の観光入込客数は大幅に減少している。

（注）外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人客数。来道者数とは、国内路線（航空、JR、フェリー）利用による旅客数（国内客と道外で入国手続きした外国人客）を指す。

●設備投資は緩やかに増加している、公共工事は増加している、住宅建築は減少している

北海道財務局発表の法人企業景気予測調査（1～3月期）によると、19年度の設備投資計画（全産業、含むソフトウェア、除く土地）は、前年比17.8%増となった（前回調査比1.8ポイント上方修正）。製造業における能力増強投資や観光客受入態勢強化に向けた投資、市街地再開発などがけん引している。公共工事は、既発注分を含めた出来高ベースで増加している。しかしながら、3月の公共工事請負金額は、前年比▲9.9%（993億48百万円）と3ヵ月ぶりに前年実績を下回った。道や市町村などの発注が減少し、全体の下押し材料となった。住宅建築は、減少傾向が続いている。しかしながら、2月の新設住宅着工戸数は、前年比11.4%増と8ヵ月ぶりに増加した。貸家が12ヵ月ぶり、分譲住宅が4ヵ月連続で増加し、全体を押し上げた。

●生産は低下している

鉱工業生産は、海外需要の減少などの影響を受けて、基調としては低下傾向が続いている。しかしながら、2月の鉱工業生産は、前月比0.9%増と3ヵ月ぶりに上昇した。生産ライン変更に伴い「自動車部品」が増産となった輸送機械などが上昇し、全体を押し上げた。

●輸出は減少している

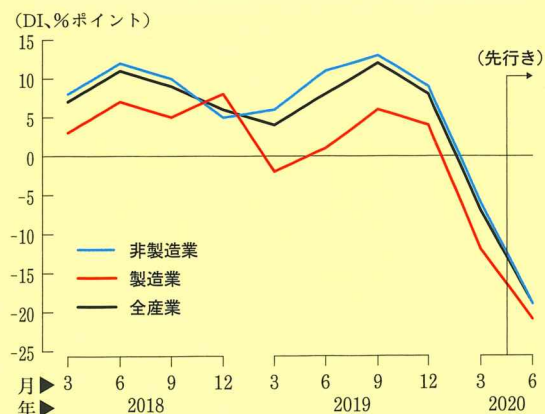
3月の通関輸出額（速報値）は、前年比▲14.8%（240億円）となり、8ヵ月連続で前年実績を下回った。品目別では、香港向け「船舶」などが前年実績を上回ったものの、中国向け「自動車の部分品」や、欧州向け「鉄鋼」などが前年実績を下回り、全体を押し下げた。

●雇用情勢は足踏み状態となっている

2月の有効求人倍率（パート含む常用）は、前年比0.03ポイント低下の1.16倍となり、2ヵ月連続で前年実績を下回った。水準自体は依然高いものの、新型肺炎の流行拡大による飲食業や観光旅客業への悪影響が出始めており、これまでの改善傾向が頭打ちとなっている模様。

日銀短観（3月調査）・業況判断DI（北海道）

業況判断DI（全産業）はマイナス7（前回調査比15ポイント低下）と2四半期連続で悪化した。うち、製造業はマイナス12（同16ポイント低下）、非製造業はマイナス6（同15ポイント低下）と、ともに2四半期連続の悪化となった。一方、先行きについては、全産業でマイナス19とさらに悪化超の割合が拡大する見通しである。



（注）業況判断DIは、「良い」-「悪い」（回答数構成比）。
 （出所）日本銀行札幌支店「企業短期経済観測調査（北海道分）」